



特集

海からの贈り物

シーボーン アートの世界

シーボーンアート

との出会い

「初めてヒオウギ貝のランプシェードを見たときの感動が忘れられません。本間さん

(NPO法人日本

渚の美術協会 代

表) が持つてきた

作品は、大きなヒ

オウギ貝を使った

とても素朴な作品

だったのですが、

灯りを付けた瞬間、

ヒオウギ貝つ

てこんなにきれいな

んだ、と思いま

した」。シーボ

ーンアート愛南教室

で代表を務める大

石博美さん(魚神

山)は、初めてシー

ボーンアートに出

会った時のことを

思い出してこう話

します。

愛南教室の活動

ゆらり内海の2階にある工房では、シーボーンアート愛南教室が月に2回、定期教室を開講しています。講師を務める大石さんと酒井やよみさん(魚神山)のほか、なじみのメンバーも含めて総勢10名程度がそれぞれのペースで作品づくりに励んでいます。



作品づくりの手を止めて話をする大石さん



作品づくりに用いられるヒオウギ貝



和やかな雰囲気の中で作品づくりが行われている



中学生に作品づくりを教える酒井さん (写真奥)

—きっかけについて—
 二人がシーボーンアートに出会ったのは、旧内海村時代にさかのぼります。村の基幹産業であった真珠産業に異変が起き、アコヤ貝の大量へい死が発生します。アコヤ貝の他にも何かなだろうかと調査していた村の職員から提案されたのがシーボーンアートでした。本間さん

—作品づくりの魅力—
 インストラクターの資格を取った大石さんと酒井さんは、平成18年に愛南教室を開講します。四国で唯一の教室として、

を村に招き、講演会が行われました。その時に本間さんは、事前に届けられたヒオウギ貝を用いて作品を制作してきたのです。

現在に至るまで精力的に活動しています。愛南教室の特徴は、何と言っても地元の特産品であるヒオウギ貝を用いた作品が数多く作られていることです。「同じ材料を使っても、できあがる作品は全然違うんです。人とは違う、自分だけの作品ができます」。講師を務める酒井さんは、作品づくりの魅力をこう説明します。



県立南宇和病院での展示のようす (平成28年2月)



—作品展について—

愛南教室では、年に2〜3回のペースで作品展を開催しています。その目的は、自分たちの作品を見てもらうだけではなく、と大石さんは言います。「展示会を開くときは、愛南町のヒオウギ貝を用いた作品を見てもらうことで、海もあり山もある自然豊かな愛南町をイメージして

もらいたいと思っています。私自身がヒオウギ貝の生産者なので、美味しくて見た目もきれいなヒオウギ貝を、もつとたくさんの人たちに知ってもらいたいという気持ちもあります」。

—今後の展望について—

二人とも仕事をしながらの活動のため、時間を確保するのが

大変です。それでも年に1回は教室のメンバーが集まって海岸清掃を行うほか、他の団体が主催する清掃活動にもボランティアで参加したりしています。「自分の生活の中でできることや、時間は限られています。無理をせず楽しく続けたい。

シーボーンアート本来の活動理念は環境美化です。愛南教室はヒオウギ貝を用いた作品づくりが主になっていきますが、その理念を忘れず、自分たちのできる範囲で活動を続けていきたい」。大石さんは今後の展望をそう話しました。

昨年の1月から教室に通い始めたという松本明子^{あきこ}さん（御荘平城）。友人が退職するのを機に、シーボーンアートの作品を作り、退職祝いとして贈ったことがきっかけで作品づくりに目覚めたそうです。「自分で図案を考えたり、

配色したりするのが楽しいです。作品を贈った友人にも、とてもきれいだねと喜んでもらいました」。そう喜びを語る松本さんは、教室に通い始めてから一つ目の作品を完成させ、現在は二作目の制作に取り組んでいます。



教室のメンバーによる海岸清掃



海岸清掃で作品づくりの材料が見つかることも



作品づくりを行う松本さん

シーボーンアート愛南教室

講師

大石 博美^{ひろみ}

酒井 やよみ

活動場所

ゆらり内海

定期教室

毎月第2・第4日曜日

体験内容

要問合せ

13時から16時まで
(二日体験も可能)

問合せ

ゆらり内海

☎ 085-111555



一日体験向けのフォトフレームやペットボトルランプ



海藻を使った作品 (大石さん作)

「シーボーンアートとは—
海から生まれた美術」と
いう意味で、海岸に流れ着い

たガラスや貝殻、流木、海藻
などの漂着物を海からの贈り
物として捉え、それらを利用
して制作する美術作品のこと
です。作品にはランプシェー
ドやステンドグラス、マリン
グラス、海藻アートなどがあ
ります。海岸に向かい清掃
活動などを行い、拾ったゴミ
の中から作品づくりに用いる
ことができるガラスや貝殻な
どがあれば利用します。海の
恵みに感謝し、環境美化を意
識した活動が理念となってい
ます。

美しい海を未来に!

海からのメッセージ

NPO法人日本渚の美術協会 代表

本間 清^{きよ}



地球の表面積の約7割を占める
海が、最近チョット悲鳴をあげて
いるように感じます。原因は様々
ですが、私たち人間が排出する生
活排水やゴミ等が、原因になつて
いる感が否めません。

海岸にはいろいろな物が漂着物
としてたどり着きます。私たちは
海岸清掃活動で収集したゴミは回
収ルートにのせ、きれいな貝殻や
海藻などは「海からの贈り物」と
して持ち帰り、アート作品に仕上
げて新たな命を吹き込みます。

「海から生まれた美術」なので、
Sea Born Art (シーボーンア
ート)と名付け、2000年にNP
Oとして活動を始めました。

そして、2004年に旧内海村
の水産農林課様よりヒオウギ貝の
貝殻活用について相談を受け、送
られてきた実物を見て、素敵な色
合いに心打たれたことを記憶して
います。ヒオウギ貝との出逢いは、
ここを原点として現在に至ってい
ます。

シーボーンアートの世界に綺

麗な色加わ
り、作品の幅
も増えて会の発展に大きく寄与
頂いたことを感謝しています。

全国で開催されるアート展
で、ヒオウギ貝作品が発するパ
フォーマンスは貝の広報に大き
な役割を演じていると感じてい
ます。

皆様にも海に行き海浜環境の
現状を再確認していただき、ヒ
オウギ貝を始めとする「海から
の贈り物」を拾い集め作品を作
って頂ければ幸いです。出来た作
品の数だけ海がきれいになるで
しょう。

この「拾う」↓「作る」↓「見
せる」の一連の活動を通じ、海
に対する思いやりの心を育みな
がら、美しい海を次世代の子ど
もたちに引き継ぎたいと願って
います。

愛南教室の頼もしい素敵な仲
間たちから生まれるヒオウギ貝
の作品が、そのきっかけとなっ
て頂ければ幸いです。